

尾鷲材の流通

(原木市場)

以前は尾鷲市内に複数の原木市場が開設され、昭和32年より地元製材業者を中心に素材を供給してきた。広域からの素材集荷機能と立木買いをを行う製材工場の余剰材の再流通機能を有し、尾鷲林業の振興に大きく貢献してきた。

木材市況の悪化に伴い、原木市場が整理され、平成24年からは尾鷲木材市場協同組合として再スタートをきった。

近年の集荷量はほぼ横ばいであるものの、地域の素材の集荷先として今後とも重要な機能を果たしていくことが期待される。



尾鷲木材市場協同組合

(加工)

製材業者の原木入手方法は、以前は立木買いの比率が高かったが、近年では立木買いが約2割強、原木市場からが約7割強となっている。伐採搬出における当地域の特徴としては、架線集材による長材搬出がある。伐倒された立木は、全幹で林道端まで搬出され、そのままトラックで製材工場まで運ばれる。そして、きめ細かな造材技術によって採材が行われる。製品乾燥への対応は、尾鷲木材協同組合及び海山木材協同組合が、協業施設としての人工乾燥施設を管理運営し、地域銘柄材の品質向上に努めている。ユーザーのニーズにこたえる新たな取組として、平成8年に尾鷲ひのきプレカット協同組合を設立し、平成9年からこの地域唯一のプレカット工場として加工を行っている。また、尾鷲ヒノキの新たな需要分野を開拓するため、平成10年に尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合を設立し、平成11年から稼働を始め、内装材の加工等を行っている。(平成26年に熊野尾鷲道路建設に伴い現在地に移転した。)



尾鷲ひのきプレカット協同組合



尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合